

感染性心内膜炎 予防ガイド

感染性心内膜炎(IE)とは？

心臓病をもつ患者さんにおこる合併症のひとつに、感染性心内膜炎という病気があります。この病気は、血液の中に細菌が入り、心臓に「疣腫(ゆうしゅ)」という細菌の塊(巣)が作られて起きる病気です。この病気は心臓の働きが悪くなったり(心不全)、血の塊が飛んで脳梗塞などを引き起こしたりします(塞栓症)。また、重症化した場合は、後遺症が残ったり、死亡することもあります。

とくに原因がなくても細菌が血液中にはいることもあります。抜歯・怪我・医学的処置(手術)など出血をともなう処置や創傷がきっかけになることがあります。したがって、この疾患を予防するためには**日常からのケアと処置を受ける際の予防的な抗菌薬投与が重要**となります。

日常からの予防の「核」となる2つの柱

感染性心内膜炎の予防で最も大切なのは、細菌が体に入り込むルートを断つことです。特に口の中と皮膚のケアが非常に重要です。

1. 口腔ケア - 細菌の最大の侵入源！

虫歯や歯周病は、感染性心内膜炎の原因となる細菌の最大の発生源です。

- ・ **毎日のケア:** 食後は丁寧な歯磨きとうがいをしてください。
- ・ **定期的な受診:** 定期的に歯科医院を受診し、虫歯や歯肉炎をしっかり治療しましょう。

2. 皮膚ケア

アトピー性皮膚炎などで皮膚に傷や炎症があると、そこから細菌が侵入するリスクが高まります。

- ・ **皮膚科で治療:** アトピー性皮膚炎がある方は、適切な治療を受け、常に良い状態を保ちましょう。
- ・ **注意すべきこと:** ピアスやタトゥーは感染リスクを高める可能性があるため主治医に相談してください。

出血を伴う治療や処置を受ける前の重要事項

出血を伴う可能性のある歯科治療や処置を受ける際は、事前に主治医にご相談ください。

1. 医師への情報提供

歯科医師や手術を行う医師に、以下の情報を伝えてください:

- ・ 心疾患の病名と治療歴など(わかる範囲でかまいません)
- ・ 心臓に入っている人工物の有無(人工弁、人工血管など)
- ・ 抗菌薬に対する薬剤アレルギーの有無

2. 予防的抗菌薬投与について

感染リスクの高い処置を行う際、細菌感染を防ぐために、処置の直前に抗菌薬(抗生剤)を飲む(または点滴する)ことが必要になる場合があります。

- ・ **適応となる処置の例(予防投与が必要・望ましいとされるもの):**
 - 抜歯など出血を伴う歯科処置、口腔外科手術、扁桃摘出、インプラント手術など
 - 下部(大腸)内視鏡、生殖器の手術及び出血を伴う検査
 - その他、医師が必要と判断した処置
- ・ **予防が不要な処置の例:**
 - 歯科矯正処置、充填処置、乳歯の自然脱落・フッ素塗布、口内法X線撮影など

3. あなたは下記疾患のため感染性心内膜炎の危険性が高く、上記処置に際して予防的抗菌薬が必要と考えられます

(わからない場合は主治医にチェックもしくは記入してもらいましょう)

- | | |
|------------------------------------|-------------------------------------|
| ☐ 先天性心疾患() | ☐ 人工弁・人工物() |
| ☐ 心臓弁膜症() | ☐ その他() |

感染性心内膜炎の予防について

医療従事者向け薬剤投与ガイドライン

抜歯など出血を伴う歯科処置の時

● 経口投与が可能な場合

①アモキシシリン(AMPC)

50mg/Kg(2.0gを超えない)を処置

1時間前に経口投与

● 経口投与ができない場合

①アンピシリン(ABPC)

50mg/Kg を処置前30分以内に静注

● ペニシリンアレルギーがあり、経口投与が可能な場合

①克林ダマイシン(CLDM):20mg/Kg を処置1時間前に経口投与

②セファレキシン(CEX)かセファドキシル(CDX):20mg/Kg を処置1時間前に経口投与

③アジスロマイシン(AZM)かクラリスロマイシン(CAM):15mg/Kg を処置1時間前に経口投与

● ペニシリンアレルギーがあり、経口投与ができない場合

①克林ダマイシン(CLDM):20mg/Kg を処置前30分以内に静注

②セファゾリン(CEZ):25mg/Kg を処置前30分以内に静注

泌尿生殖器・消化管(食道を除く)の手術・処置の時

● 経口投与でき、またはアレルギーがない場合は同上

● アンピシリン・アモキシシリンにアレルギーがある場合

①バンコマイシン(VM)

20mg/Kg を1~2時間かけて静注し、処置前30分以内に終える

● 参考:一般的に注意が必要な方

以下の項目は、感染性心内膜炎のリスクが高いとされる一般的な基準の一部です。

- ・人工物が体内にある方:人工弁、人工血管、閉鎖栓(心房中隔欠損閉鎖術後は6カ月以内)など
- ・過去に感染性心内膜炎にかかったことがある方
- ・生まれつきの心臓の異常がある方:特定の先天性心疾患(手術後も注意が必要なケースがあります)
- ・心臓の弁からの血液の逆流がある方:特定の心臓弁膜症(重症度により異なる場合があります)

▲ 緊急時の対応(発熱時)

適切な予防をしていても、感染することはあります。下記のような場合は、すぐに医療機関(主治医)にご連絡ください。

- ・原因不明の発熱が4日以上続く場合
- ・何週間も熱が出たり下がったりを繰り返す場合